

平成22年度地域密着型金融推進計画の進捗結果 (平成22年4月から平成23年3月まで)

平成22年度の進捗状況、進捗結果に対する分析および評価

平成22年度は、概ねスケジュールどおり進捗しました。

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

経営支援先を選定し、事業の早期再生のために経営改善計画の策定支援を行ったほか、中小企業施策の活用、事業承継問題への対応およびビジネスマッチング等に取り組みました。また、各地域商工会と連携して、創業・新事業進出を支援するためのノウハウを提供しました。

取引先企業への有効な支援のためには、経営支援担当者が提案に活用できる新たな支援ツールが必要と考え、23年1月に経営改善計画策定ソフト(MAPクイックリレーションシステム)を導入しました。また、ソフト活用の勉強会を実施し、職員のコンサルティング能力の向上に努めました。その結果、条件変更先への経営改善計画の策定件数が増加しました。

取引先企業の支援強化の目標設定項目に対する実績は以下のとおりです。

目標設定項目	22年度目標	22年度実績
経営改善計画策定先数	75先	82先

2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底

取引先企業の状態を把握するために、研修・勉強会等により職員の目利き能力の向上を図るとともに、定期的・継続的訪問活動を強化するために、定期積金訪問先獲得の実践訓練を行いました。また、定性情報の適正評価による信用格付等への反映や、担保・保証に過度に依存しない新規融資(プロパー扱い)の取扱を9月から開始しました。

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

NPO法人「静岡県西部地域しんきん経済研究所」の情報提供機能を利用して、各種情報を地域へ発信しました。

また、地域活性化のためのサービス提供として、金融知識の普及に努めるとともに、「NPO法人奥浜名湖観光まちづくりねっと」に参画し、活動に協力しました。

4. 協同組織金融機関としての取組

会員に対するアンケート結果を集計・分析し、ホームページに掲載しました。

また、金庫の経営管理態勢のより一層の強化のため、法令等遵守の徹底、リスク管理体制の充実に取り組みました。

平成22年度は概ねスケジュールどおりに進捗しましたが、この取組につきましては、金庫の健全経営のための恒久的な課題として捉え、引き続き取組を強化していきます。

アクションプログラムに基づく個別項目の進捗状況

項目および要請事項	具体的取組策	実施スケジュール		進捗結果		備考
		22年度上期	22年度下期	平成22年度上期	平成22年度下期	
1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化						
(1) 事業再生						
早期再生と持続可能性のある事業再構築	シミュレーションソフトを用いて取引先企業の現状を分析し、営業店の支援活動方針と支援先ごとの支援方針を決定する。 また、支援先の状況を定期的に把握し、支援の進捗状況に応じて支援活動方針を再構築していく。	・支援先を選定し支援方針を決定する。 ・支援先企業へのモニタリングを実施する。 ・企業の経営改善計画書の作成を支援する。 ・中小企業再生支援協議会を活用した再建策を検討する。	・支援先企業へのモニタリングを実施する。 ・企業の経営改善計画書の作成を支援する。 ・中小企業再生支援協議会を活用した再建策を検討する。	・支援先25社を選定し、7月よりモニタリングを開始した。 ・取引先企業の経営改善計画書の作成を支援した。 ・中小企業再生支援協議会の利用先として2先推進したが進展しなかった。	・今期82件の経営改善計画の策定支援を実施した。内訳は経営支援先の計画策定件数が6件、76件は中小企業金融円滑化法の条件変更先に対する計画策定であった。 ・経営支援先企業のモニタリングを実施し、25先のうち11件が債務者区分のアップ、23先が債務者区分の維持ができた。	事業再生計画策定先数 目標：75先 実績：82先 内訳 経営支援先 6件 条件変更先 76件
(2) 創業・新事業支援						
創業・新事業進出ノウハウの提供	新事業進出に係る経営革新計画策定支援等、創業計画の策定を支援するとともに、中小企業支援施策等の情報を提供する。 また、地元商工会が開催する創業塾を支援する。	・創業希望者に対して事業シミュレーションの実施を支援する。 ・地元商工会が開催する創業塾や経営革新講座を支援する。	創業希望者に対して事業シミュレーションの実施を支援する。	・6月に入野支店取引先の開業のシミュレーション作成支援を行った。 ・新居町商工会主催の創業塾へ講師として職員を派遣した。	・3月に湖西支店取引先の病院開業計画の策定支援を行った。	
(3) 経営改善支援						
コンサルティング能力・態勢の強化	経営支援担当者を対象にした支援ツール活用の勉強会を実施し、支援ツールを活用した提案活動を実施する。	新たな支援ツール活用の自主勉強会を開催する。	・新たな支援ツール活用の自主勉強会を開催する。 ・新たなツールを活用した提案活動を実施する。	新たな経営改善計画策定ツールの導入を検討したが、決定には至らなかったため勉強会を開催できなかった。	・23年1月に営業店で経営改善計画作成支援ができるソフト「MAPクイックリレーションシステム」を全店に導入した。 ・2～3月にかけて各店に経営改善計画策定・ソフト活用に関する勉強会を実施した。	
ビジネスマッチングの活用	ビジネスマッチングフェアへ参画し取引先へ、各種のビジネスマッチングフェアの開催情報を提供する。 また、えんしん経営者クラブが主催する交流会とビジネスマッチングを支援する。	・「ビジネスマッチングフェアinHamamatsu2010」を浜松信用金庫と共催する。 ・東海地区信用金庫協会が主催する「しんきんビジネスマッチングフェア2010」の出展企業・発注企業・産学官連携ビジネス大賞の募集を行う。 ・えんしん経営者クラブが主催する地域活性化セミナー & 交流会を支援する。 ・三遠南信8信金が主催する「しんきんサミット」出展企業・地域活性化事例発表企業の募集を行う。	・「しんきんビジネスマッチング2010」に参画する。 ・三遠南信7信金とともに「三遠南信サミット」を開催する。 ・えんしん経営者クラブが主催する「新春経営セミナー & 交流会」を支援する。	・7月21、22日の2日間「ビジネスマッチングフェアinHamamatsu2010」を浜松信用金庫と共催した。 ・東海地区信用金庫協会が主催する「しんきんビジネスマッチング2010」への出展企業を募集し、5社から応募を受付した。 ・えんしん経営者クラブ主催の地域活性化セミナー & 交流会を支援した。 ・三遠南信8信用金庫主催の「しんきんサミット」の出展企業を募集し、2社から応募を受付した。	・11月5日東海地区信用金庫協会主催の「しんきんビジネスマッチング2010」の開催を支援した。当金庫からは、出展企業5社、個別相談会2社、さらにえんしん経営者クラブで視察ツアーを開催した。 ・9月9日えんしん経営者クラブ主催地域活性化セミナー & 交流会を開催し、会員相互の交流を支援した。 ・三遠南信8信金主催の「しんきんサミット」を開催し、当金庫から物産展に2社、シンポジウムに1社が参加した。	
中小企業施策の活用	中小企業応援センターへ参画し、取引先への中小企業支援施策に関する情報提供と経営革新等各種計画の認定支援に努める。	中小企業応援センター事業に参画して、経営革新等各種計画の認定支援等により取引先の経営改善支援に役立てる。 ・取引先に対して各種中小企業施策に関する情報を提供する。	上期取組を継続する。	・取引先の経営革新計画策定を支援し、3先が認定された。 ・取引先に対し、補助金・助成金情報を提供した。	・取引先の経営革新計画策定を支援し5先が認定を受けた。 ・取引先に対し、補助金・助成金情報の提供を行った。	
(4) 事業承継						
事業承継問題に対する相談体制の活用	外部機関等と連携した相談体制を活用することにより、事業承継問題に対応する。	・浜松商工会議所の事業承継支援センターと連携し、事業承継問題を抱える取引先の相談に対応する。 ・えんしん経営者クラブ主催の「後継者セミナー」を支援し、事業承継ニーズに対応する。	上期取組を継続する。	えんしん経営者クラブ主催で6月～9月に「後継者育成セミナー」を開催し、事業承継を支援した。	取引先からのM&A相談に2件対応した。うち1件については企業評価を実施した。	

2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底						
(1) 担保・保証に過度に依存しない融資						
目利き機能の向上	外部の「目利き講座」に職員を派遣する。また、自主勉強会を実施して職員の目利き力の向上を図る。	東海地区信用金庫協会主催の「企業再生支援講座」へ職員を派遣する。	目利き力向上のための自主勉強会を実施する。	・7月21日～23日東海地区信用金庫協会主催の企業再生支援講座へ職員2名(支店長)を派遣した。 ・9月25日目利き力向上のための自主勉強会を中小企業診断士資格を有する職員が講師となり開催した。(対象:平成19、20、21、22年度入庫職員 計14名)	1月19日、税理士を講師として、融資担当役員25名、渉外担当役員25名を対象に目利き力向上研修を実施した。	
渉外担当者の訪問管理軒数の増加	訪問管理軒数を増加させるための研修ならびに実践訓練を実施する。	・職員の定期積金セールス技術向上実践訓練を実施する。 ・管理者研修を実施する。	・上期取組を継続する。	・定期積金セールス技術研修を3回実施した。 ・管理者研修を2回実施した。	・定期積金セールス技術研修を6回実施した。 ・管理者研修を2回実施した。	
目利き力の向上と取引先の定性情報の的確な把握	定量面での実態把握に努めるとともに、企業の将来性等の定性面を見極める力(目利き力)の向上を図る。また、定性情報を適正に評価するとともに信用格付等へ反映させる。	・目利き力向上の外部研修へ職員を派遣する。 ・勉強会と臨店指導の実施により、信用格付の精度向上を図る。	信用格付と自己査定との整合性向上を指導する。	・融資担当役員会議において、自己査定と信用格付について指導した。 ・9月から担保・保証に過度に依存しない融資として、新規融資(プロパー扱い)の取扱を開始した。	・融資担当役員に対して、信用格付ならびに自己査定の実施方法についての説明会を行った。 ・企業の定性分析のポイント、業種別の営業活動の見方、経営改善計画チェックシートの作成上の留意点等についての勉強会を実施した。 ・融資採り上げの留意点である「資金使途確認」「キャッシュフロー」の重要性についての勉強会を実施した。	マル新融資実績H22.9～H23.3 71先(73件) 1,621百万円
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献						
(1) 地域の面的再生						
地域資源活用プログラム認定支援を通じた地域経済への貢献	平成22年2月に認定を取得した地域資源活用プログラムについて、計画の具体化に向けての協議へ参画し、また活動に協力する。	「NPO法人奥浜名湖観光まちづくりねっと」と連携して語り部、観光ガイドの養成、観光コースの策定等に協力する。	上期取組を継続する。	・「NPO法人奥浜名湖観光まちづくりねっと」が語り部養成、観光ガイドの養成講座を開催し、当金庫も参加した。 ・観光コースの策定会合に参加協力した。	上期に引き続き、観光ガイドの養成やプロクターの発行等参加協力した。 又、11月13日に飯田市で行われた三遠南信しんきんサミットのシンポジウムにおいて、地域資源活用事例の発表の場を提供した。	
地域顧客に対する情報提供機能の強化	NPO法人「静岡県西部地域しんきん経済研究所」と連携し、地域顧客に対して金融経済動向等の情報提供を行う。	NPO法人「静岡県西部地域しんきん経済研究所」と連携して、地域顧客に「しんきんパートナー」「景況レポート」等の金融経済動向等の情報を提供する。	上期取組を継続する。	NPO法人静岡県西部地域しんきん経済研究所が発行する「しんきんパートナー」「景況レポート」を地域顧客に配布し、金融経済動向の情報を提供した。	・NPO法人静岡県西部地域しんきん経済研究所が発行する「しんきんパートナー」「景況レポート」を地域顧客に配布し、金融経済動向の情報を提供した。 ・「自動車産業に関する調査」を実施し、次世代型自動車の普及に関する影響度合いについて調査をまとめ、地域に情報発信した。	
(2) 地域活性化のためのサービス提供						
地域を担う若い世代への金融知識の普及	地域の学校や事業所に対する金融セミナーを実施する。	金融セミナーを実施する。	上期取組を継続する。	・上期に浜松大学で金融セミナーの開催を予定していたが、下期(11月25日)の開催に変更となった。 ・4月28日～9月29日の間、静岡文化芸術大学で金融セミナーを12回開催した。	11月25日、浜松大学にて「就職にも役立つ企業の見方と経営改善」をテーマに学生50名を対象に講義した。	

4. 協同組織金融機関としての取組						
(1) 会員との関係強化						
会員からの意見の金庫業務への反映	会員に対するアンケート結果を金庫業務へ反映する。	会員に対するアンケートの結果および金庫対応策をホームページに掲載する。	地区別総代会において総代との意見交換を実施し、その意見を金庫業務に反映する。	会員に対するアンケートの集計・分析結果をホームページに掲載した。	アンケートの集計結果を当金庫のホームページに掲載した。職員へ周知した。また、会員からの要望に対し、具体的な対応に努めた。	
(2) 経営力の強化						
法令等遵守の徹底	勉強会・講習会等の実施によりコンプライアンスの認識を強化するとともに、各種会議でコンプライアンスの状況等を開示していく。	<ul style="list-style-type: none"> 「営業店不祥事件徹底防止」マニュアルを参考書として勉強会を実施する。 外部講師による階層別コンプライアンス研修を実施する。 コンプライアンスオフィサー会議で苦情等の事例を発表し、再発防止を図る。 コンプライアンス認識テストを実施し、コンプライアンス意識の醸成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 投資信託のコンプライアンス研修を実施する。 係長を対象に不当要求防止責任者講習を実施する。 コンプライアンスオフィサー会議で、苦情等の事例を発表し、再発防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月20日、7月22日、コンプライアンスオフィサー会議を開催した。 9月17日信金中央金庫静岡支店長を講師として係長職35名を対象にコンプライアンス研修を実施した。 コンプライアンス理解度確認テストを全職員対象に実施した。 「営業店不祥事徹底防止マニュアル」を参考書として勉強会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月19日、1月18日、コンプライアンスオフィサー会議を開催した。 12月18日、投信窓販外務行為に伴う研修を実施した。 2月16日、係長を対象とした不当要求防止責任者講習を開催した。 3月3日、パート職員のコンプライアンス研修を実施した。 全職員を対象にコンプライアンス理解度確認テストを実施した。 	
リスク管理体制の充実	勉強会を実施して、リスク管理統括委員のリスク認識を向上させ、各リスク指標の特徴と問題点を把握して一層の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> リスク量計測手法の高度化と多様化を図る。 各種シミュレーションの実施により、リスクを多面的に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合的リスク管理向上のための外部研修に職員を派遣する。 信用リスク量計測手法の高度化のため、問題点等の内容を検討し、原因を検証する。 	リスク量計測における信用部分計量化を推進した。	<ul style="list-style-type: none"> 11月8日全信協リスク管理中級セミナー参加 1月28日野村證券Ireportセミナー参加 リスクリターン対比表を作成しリスク量と収益のバランスをチェック 	

経営改善支援の取組状況

経営情報室と営業店が連携してお取引先企業の経営改善支援に取り組んでいます。

お取引先企業の現状分析に基づいた経営改善計画策定のアドバイスや、計画策定後の進捗状況のフォローを行う等、お取引先企業とともに経営改善に向けて取り組んでいます。

平成22年度の経営支援取組実績は次のとおりです。

【22年4月～23年3月】平成22年度 経営支援取組実績

(単位:先)

	期初 債務者数 A	うち 経営改善支 援取組み先 数	のうち期末	のうち期末	のうち再生	経営改善 支援取組 み率 / A	ランクアッ プ率 /	再生計画 策定率 /	
			に債務者区 分がランク アップした先 数	に債務者区 分が変化しな かった先数	計画を策定し た先数				
正常先	3,788	11		11	4	0.3%		36.4%	
要 注 意 先	うちその他 要注意先	527	89	1	88	78	16.9%	1.1%	87.6%
	うち 要管理先	10	1	0	1	0	10.0%	0.0%	0.0%
破綻懸念先	109	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	
実質破綻先	82	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	
破綻先	14	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	
小計 (～の計)	742	90	1	89	78	12.1%	1.1%	86.7%	
合計	4,530	101	1	100	82	2.2%	1.0%	81.2%	

- (注)
- ・期初債務者数および債務者区分は22年4月当初時点で整理しました。
 - ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含んでいません。
 - ・には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しました。
 - ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含んでいません。
 - ・「再生計画を策定した先数」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」

<用語解説>

中小企業再生支援協議会	地域の中小企業の事業再生に向けた取組みを支援する公的機関です。
中小企業基盤整備機構	中小企業者その他の事業者の事業活動に必要な助言、研修、資金の貸付等、事業活動の活性化のための基盤整備を行う独立行政法人です。
ビジネスマッチング	金融機関のお客さま同士をビジネスでつなぐことです。
目利き機能	目利き能力とは、企業の将来性や技術力を的確に評価する能力のことをいいます。当金庫においても、企業の事業運営の仕組みを理解する力を高め、創業企業および取引先企業に対する経営相談・支援機能を発揮できる人材を育成する等目利き機能の向上に努めています。
定性情報	貸借対照表や損益計算書等の数値・データおよびそれらの推移等を定量情報と言うのに対して、企業が持つ技術力や市場環境等を評価したものを定性情報と言います。
信用格付	信用格付は、統一的な基準で企業を評価することにより企業評価を標準化するとともに、貸出に係る信用リスクを計量化することにより貸出資産の健全性を確保する仕組みです。
地域資源活用プログラム	地域の中小企業の知恵とやる気を活かして、地域の「強み」と成り得る特徴ある資源(地域資源)を活用した新商品・新サービスの開発や販路開拓を支援するものです。具体的には「中小企業地域資源活用促進法」に基づく税制面や融資・補助金等の支援や予算措置による補助金や委託費等による支援、その他商品企画や販路開拓等に必要ノウハウの提供やアドバイスなど総合的な支援を実施し、地域の強みを活かした産業を形成・強化していくことを目指しています。
NPO法人「静岡県西部地域しんきん経済研究所」	県西部地域を対象として、経済動向の把握、中小企業に対する経営情報の提供、生活者に対する金融経済知識の普及等を行うことを目的として、浜松信用金庫と共同で設立したシンクタンクです。
会員	当金庫の地区内に住所または居所を有する者、事業所を有する者もしくは勤労に従事する者で、事業者においては、従業員300人以下または資本金が9億円以下に限られており、出資をされている方です。
法令等遵守(コンプライアンス)	急激な時代の変革の中でより健全経営を遂行していくため、企業・職業倫理の向上に努め、日常業務運営において法令や規則等を遵守して違法行為等の早期発見や事故等の未然防止を図ることです。